



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天象. 天界 1931, 11(127): 498-501

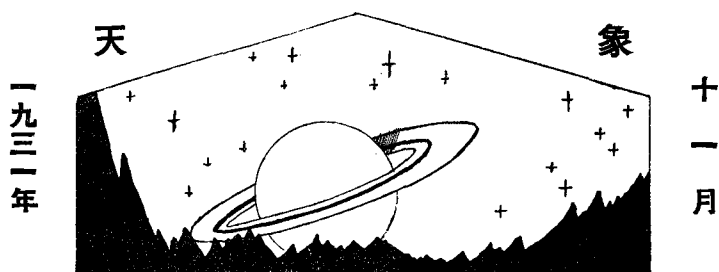
ISSUE DATE:

1931-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161723>

RIGHT:



## 太陽

日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
7	14時45分 6秒	南15度58分	32分20秒	てんびん
17	15時25分40秒	南18度44分		てんびん
27	16時 7分35秒	南20度56分		さそり
(7)	16時50分44秒	南22度30分		へびつかひ

太陽は月の始め天蝸宮に在るが、二十三日から人馬宮に侵入する。日の出は、一日に六時十七分、十一日に六時二十七分、二十一日に六時三十六分、十二月一日に六時四十六分。日の入は、一日に五時四分、十一日に四時五十五分、二十一日に四時四十九分、十二月一日に四時四十六分。即ち、晝間は次第に短くなって、月の始め十時間四十七分であつたものが、月末には九時間五十九分となる。

## 月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
下 弦	3日午後 4時18分	31分44秒	か に
新 月	11日午前 7時55分	32分45秒	てんびん
上 弦	17日午前11時13分	30分 4秒	や ぎ
満 月	25日午後 4時10分	30分29秒	う し
近地點通過	9日午前 0時 0分	33分12秒	を とめ
遠地點通過	21日午前 1時48分	29分29秒	う を
降交點通過	7日午後 1時 0分	33分 0秒	を とめ
昇交點通過	20日午後 8時42分	29分29秒	う を

月の出は、一日に午後九時五分、六日に午前一時四十一分、十一日に午前七時五十分、十六日に午後零時二十五分、二十一日に午後二時三十分、二十六日に午後五時十分、十二月一日に午後十時二十分。月の入は、一日に午前十一時三十五分、六日に午後二時四十一分、十一日に午後五時三十八分、十六日に午後十時四十五分、二十一日に午前二時三十六分、二十六日午前七時三十三分、十二月一日に午前十一時四十一分。

## 遊 星 界

**水 星** 太陽が没すると直ぐ、宵の星として、西の空に低く見える。月始めは、 $\epsilon$ てんびん $\gamma$ 座アルファ星の東側近くに在るが、次第に順行を續けて、十一日頃には、 $\epsilon$ さそり $\gamma$ 座デルタ星の近くを過ぎ、十六日には $\epsilon$ さそり $\gamma$ 座アルファ星、即ちアンタレスの北側 $2^\circ$ の邊を通り、月末には $\epsilon$ いて $\gamma$ 座に入つて、メシエ八番の近く迄で運行する。光度は、月始め $-0.7$ 級で、月末には $-0.3$ 級となる。又た、月始めは、まだ太陽に近くて観望は困難であるが、月末になる程見易くなる。地球からの距離は、月の始め約2億1500萬キロメートルであるが、月末には約1億7000萬キロ程に近くなる。視直径は大體六秒である。

**金 星** 宵の星。水星に近く、月の始めは $\epsilon$ てんびん $\gamma$ 座の略中央にあつて、順行を續け、十日に $\epsilon$ さそり $\gamma$ 座オメガ星の近くを通り、月末には $\epsilon$ へびつかひ $\gamma$ 座へ入る。光度は大體 $-3.3$ 級であつて、視直径も約十秒である。地球からの距離は、月の始め約2億5000萬キロメートル、月末には約2億3500萬キロメートルとなる。十九日正午に火星と非常に接近(見かけ上)する。その時は大體月の直径の八分の一程の近さで、金星の方が北側である。

**火 星** 宵の星で、水星や金星と近く、十九日には金星と、二十一日には水星と會合する。月始め $\epsilon$ さそり $\gamma$ オメガ星の近くより順行して、月末には $\epsilon$ へびつかひ $\gamma$ 座に入る。光度は $1.6$ 級で、視直径は四秒。地球からの距離は、約3億5000萬キロメートルである。

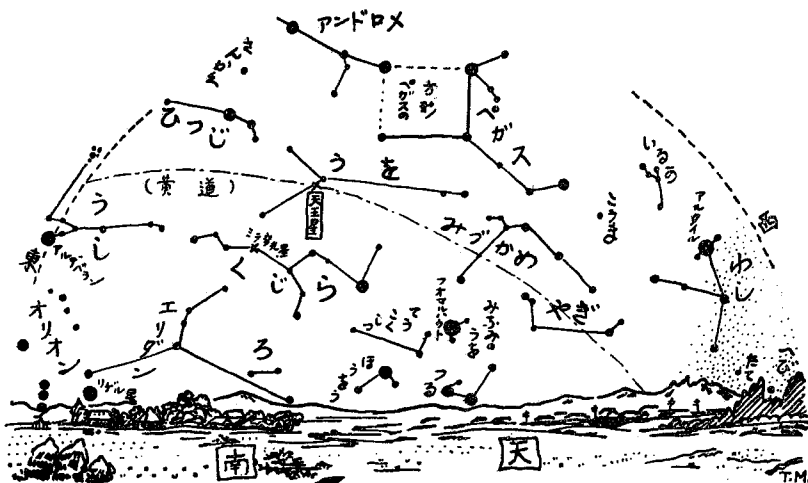
**木 星** 曉の星として、 $\epsilon$ しし $\gamma$ と $\epsilon$ かに $\gamma$ との星座の境界附近にある。光度は $-1.7$ 級、視直径は35秒。地球からの距離は月の始め、8億キロメートル、月末は7億5000萬キロメートルである。

**土 星** 宵の星。月始め程観望にはよい。大體に於いて、 $\epsilon$ いて $\gamma$ 座ビー星に近い。光度 $0.8$ 級、視直径14秒。地球より約15億キロの距離。

**天王星** 宵に南中する。位置は $\epsilon$ うを $\gamma$ 座。光度 $6$ 級。視直径三秒。

**海王星** 曉の星、 $\epsilon$ しし $\gamma$ 座ロ $\gamma$ 星に近い。光度 $8$ 級。視直径二秒。

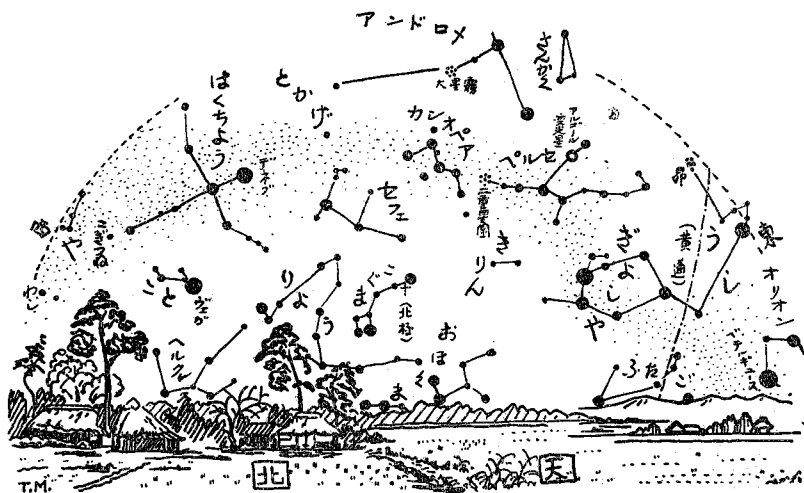
**冥王星**  $\epsilon$ ふたご $\gamma$ 座デルタ星に近い。光度 $15$ 級。観測好機に入る



## 太陽系

今月の天象の中で、月と遊星とに就いて述べて見やう。先づ四日午前九時に木星と月とが會合する。此の時、木星は月の南約3度の邊で並ぶ。次は四日の午後一時に金星が降交點を通過する。五日午後三時には海王星と月と會合。同日午後七時には水星が遠日點を通過する。次いで、十一日午前八時に水星と月と合。同日午後二時には金星と月と會合。更らに續いて月は、此の日午後九時に火星と會合する。十四日午後四時には土星と月と會合。十五日午前九時には木星が下矩となる。飛んで十九日正午には金星と火星と會合。此の時は金星は火星の北僅かに四分の所で並ぶ。更らに二十一日午前十時には火星は水星と會合。同日午後十時には天王星と月と會合。

今月、特に注意すべき天象は、中旬に出現する「しし」座流星群である。大體十日頃から二十日頃まで、輻射點の位置は日に依つて移動するけれど、大體赤經 $10^h0^m$ 、赤緯北 $22^\circ$ 附近、即ち、「しし」星ガムマ星の近くである。熱心なる會員の觀測を希望する。



恒 星 界

夏の星座の「わし」、「こと」、「や」等親しみ深かつた姿は、次第に西に傾いて、今や子午線を通過しつつあるものは、「おほくま」、「こぐま」、「セフェ」、「カシオペヤ」、「アンドロメ」、「ペガス」、「うを」、「くぢら」、「てうこくしつ」、「ほうをう」等の諸星座である。殊に「オリオン」の三つ星が、早や既に、東の空に姿を現はし始めては、冬も間近かに迫つた事を感じずには居られない。

銀河は北寄りに、殆んど東西に流れ、此の流れに沿ふて、「わし」、「や」、「きつね」、「はくちよう」等の、夏を代表する星座は西に並び、「オリオン」、「ふたご」、「うし」、「ぎよしや」、「ペルセ」等の冬を代表するものは東に對峙してゐる。「ベガス」の正方形は殆んど天頂に座を占めて、「アンドロメ」と共に、此の夏冬の代表者の對向の行司役を務める。だが、冬の星座の方が優勢の様である。「くぢら」のミラ變光星を始めとして、「ペルセ」のアルゴル、同座の二重星團、「アンドロメ」の大星霧等、見るべきものが多い。又た、南天に只一人「みなみうを」のフオマルネウトが附近を壓して輝いてゐるのも勇ましい。